

優秀賞

Prize for Excellence

さんさん山城 (京都府京田辺市)

受賞理由 育てた野菜はカフェで

耕作放棄地を活用して伝統野菜を生産するとともに、併設のカフェでワンコインランチを提供しています。地域に根ざした取り組みを通して、多種多様な人びとが活躍できる「地域共生社会づくり」を実践しています。



概要 宇治抹茶や京野菜を育てる

2011年開所。高齢で担い手のいなかった、15㍓の茶園を継承し、宇治茶(抹茶の元となる碾茶)の栽培から開始。その後、京都えびいも、田辺なす、万願寺唐辛子、京夏ずきんなどの京野菜の栽培に力を注いでいます。聴覚障害者27人、知的5人、精神3人の利用者と職員8

人(うち障害者3人)で、農作業、菓子加工、カフェ、縫製、販売に取り組んでいます。ノウフクJASとJGAPの認証を得て、生産した農作物は京都市内の高級ホテルや料亭などにも出荷しています。毎年5月、宇治茶の茶摘み体験できる「ノウフク茶摘みの集い」を開催しています。



成果 SDGs国際会議に参加

<農林水産業>

・ノウフクJAS認証を受けた京野菜が京都市内の多くの高級店で使われ、「農福連携」の普及啓発および地産地消にも貢献しています。

<障害者等>

・2019年6月、韓国で開かれた「国連SDGs済州国際会議」に利用者12人、職員5人で出席しました。テレビ、新聞、雑誌など多方面からの評価により、自分の仕事に

価値や誇りを見出しています。

<地域>

・さんさん山城は、子どもから高齢者まで地域住民の居場所になっています。茶摘みやブルーベリー狩り体験に多くの市民が訪れ、営業時間外のカフェは無料で市民団体の会議やママ友グループの集まりなど、広く市民に開放しています。